

今日-この頃

森 一久氏
(日本原子力産業会議 専務理事)



日中原子力協力に手応え

中国に対する技術輸出問題が話題を呼んでいる。原子力技術でもある。自主技術で泰山に建設する出力三千万KWの加圧水型炉に続いて、出力九十万KW級の原子力発電所を広東に二基、遼東に二基、合わせて四基を建設する計画を持っている。この四基については「フランスから輸入したい」ということを話し合いついた。そして二基目は輸入炉で、二基目以降は一次系を輸入、二次系を国産でまかなう方針という。

「原子力工業省の人たちと話し合い、上海の原子炉研究施設や工場なども見学したが、とても中国が考えているように、簡単にできるものではない。一次系は輸入するにしても、建設から運転、保守まで自力でやるのは難しい」という印象を受けた。

原研防中代表の一員として、先月はじめ北京を訪れ、中国原子力工業省首脳らと会談。その後同国の原子力研究施設や工場を視察しての印象である。同じ時期にフランスのミラン大統領が訪中し中仏間で「原子力発電所供与の覚書」が交わされた。

やっぱりフランス。「中国としては日本のメーカに断られたため、結局フランスから輸入することになった。ただ、そのフランスの原子力発電が順調に動いているのも、日本のおかげと聞かされて、技術は日本の思いも強い」という。事実「日本の技術協力なしには中国の原子力開発に成功しないと思えます」とも。

そのせいだろうか。日中原子力技術協力の一番のネックである核不拡散問題について中国側の態度が軟化した。

「核兵器がこれ以上増えるのは好ましくないし、核不拡散を主張する日本の立場は理解できる」と、初めて核不拡散政策支援の立場を明らかにした。

核保有国でIAEAの保障措置を受けていない中国。おいそれと原子力協力は裏を結ばない。しかし「協力できる可能性は大いに高まりました」と十分な手ごたえを感じている。

わが国の原子力技術水準の向上に伴い海外からの注文も多い。中国から帰ってすぐに米原研首脳と定期協議のためハワイへ。近く招かれてもうひとつの隣国韓国を訪れる計画も。「義理を果たすために」席の温まるひまもない。

(藤)

メリカ八五% (国産および開発) ネルギー政策の転換機に着手、その
入、フランス二〇〇% (国産) の作業の一環としてウラン資源開

この目標達成には供給源の多様

焦点

須田栄さん 八十六歳。先日脳軟化症で異常行動をする妻を殺した

▼年をいた夫婦二人だけの生活だった。老人はけの妻は深夜外出、薬を放置散乱、時には配偶者の顔も忘れる。夫は看病に疲れ、夫婦心中を謀った。須田さんは死に切れたかった。彼は輝かしいコラムニストである。東京新聞夕刊の「千夜一夜」の執筆を、昭和十一年七月一日から、退職後の現在まで、単独連続執筆してきた人である▼昨年六月「日本記者クラブ賞」を受賞した時、こうあいさつした。「私は仏壇の両親の位牌に報告、次いで茶の間の妻に報告した。妻は私の前に正座し、いんぎんに手をつき、おめでとございます。ほんとうに長いこと苦労さまでした、といってくれた」▼「彼女の眼には光るものがあつた。お前の内助の功が多分にあるよ、とさりげなく笑顔をみせたものの、私も内心ジーンと熱いものを感じた」。須田夫婦は大正十二年の恋愛結婚だが、すぐ大震災ですべてを失

技術の日立

HITACHI



電新 1983. 6. 7.

電新 1983. 6. 7. 日付